「〔仮称〕ふくしま農業人材育成センター施設整備」基本・実施設計業務
公募型プロポーザル審査委員会　審査講評

１　審査経過

本施設の整備事業基本・実施設計委託業務に係る公募型プロポーザルでは、各分野を代表する７名の審査委員による審査委員会により、募集要領の策定から最終審査に至るまで、慎重かつ厳正な審査を行いました。

（１）第１回審査委員会

日程：令和３年５月７日（金）

場所：福島県農業総合センター農業短期大学校（福島県矢吹町）

議事：委員長、副委員長の選出、基本構想等の経緯の確認、募集要領、審査スケジュール等の協議。

（２）第２回審査委員会

日程：令和３年７月２３日（金）

場所：杉妻会館（福島県福島市）

議事：冒頭、失格条項等について審議し、特に技術提案書の作成説明書等に抵触し、失格となるものまたは評価対象外とする表現に該当するものが無いこと等について確認。その後、一次審査を行い、評価の高い５者をヒアリング対象者に選定。

（３）第３回審査委員会

日程：令和３年８月１０日（火）

場所：パルセいいざか（福島県福島市）

議事：第２回審査委員会にてヒアリング対象に選定した５者によるプレゼンテーション（各２０分）及び質疑応答（全者一斉、９０分）を実施。
その後、審査委員による協議を踏まえ、全会一致により最優秀（設計委託候補者）１者及び次点１者を決定。

２　審査結果

最優秀（設計受託候補者）：辺見設計・Ｃ＋Ａ共同企業体

次点　　：株式会社ティ・アール建築アトリエ

３　講評

（１）全体講評

本施設のプロポーザルで求めた提案課題は、次の５題でした。

・県農業の持続的発展に向けた先端技術（スマート農業）を学べる施設
・良好な教育・研修環境の中で学生や研修生が快適に過ごせる施設
・学生等の自らの学びと農業者、指導者等と多様な交流を促す施設
・伝統と革新、地域に配慮した意匠、県産材の積極的な活用とエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設
・それ以外に提案者が特に重要と考える提案

ヒアリングを要請した提案は、いずれも先端技術（スマート農業）を学ぶ施設として工夫が凝らされ、農業者への教育に対する可能性を感じるものでした。

また、随所に施された仕掛けにより学生や研修生の学びや交流を促す狙いが見られるなど、単に教育施設としての機能を果たすだけではなく、生活する学生や研修生についても考えられたものでした。

最優秀の提案はいずれの課題についても熟慮され、教育施設としても生活施設としても配慮し組み上げられているとともに、取組体制を整え、実現性にも踏み込んで計画されており、総合力の高さを感じさせるものでした。

（２）個別講評

各審査委員の評価・意見をまとめて、各者の提案内容を個別に講評します。

〇最優秀：辺見設計・Ｃ＋Ａ共同企業体（受付番号１５）

特徴的な六角形平面のスマート農業研修室は、その１面がガラス張りの格納庫、また３面が開放された形となっており、その作り方や使われ方に今後の多様な展開の可能性が感じられ、高く評価されました。

また、集落のイメージを具現化した魅力を感じる配置や、施設内部に施されたドマ・ヒロマ・エンガワなど人々が集まる様々な仕掛け、また３～４室のユニットの分節化により随所に外光が差し込む温かみのある平面計画は、住む者が心安らぐ優しさを持った居住空間であると感じました。

加えて、コストシミュレーションを実施した実現性の高い提案であること、ヒアリングにおけるチーム全体での対応や綿密に作成された取組体制から感じられるチームワークの良さなど、このプロポーザルに対する熱意や理解の深さが感じられました。

一方で、広場等の外部へ随所で出られる計画であるため上履きの履き替えなどに課題も残るため、今後の幅広い意見交換の実施などにより、さらに魅力的な設計内容

となることを期待します。

〇次点：株式会社ティ・アール建築アトリエ（受付番号１９）

全体を非常にコンパクトでバランス良くまとめられた配置計画となっており、その中にポケットやラウンジ、ハブコモンズなど、各所に様々な学びや交流が生まれる場所が設けられています。室内環境的にもナイトパージなどの配慮が見られ、随所に設計能力の高さが窺える提案であり、また、県産材を用いた縦ログ構法により福島県の施設を作るという意欲溢れた提案として、高く評価をされました。

一方で、研修棟を地場産小径木材によるトラス、アーチ工法を用いた点に特徴があったものの、諸室の空間バランスや防音などへの影響が懸念として残りました。

また、居住空間の柔らかさや温かみ、住み心地の良さといった魅力がやや及ばず、全体として次点の評価となりました。

（以下、受付番号順）

〇一級建築士事務所ハコプラスデザイン（受付番号８）

スマート農業研修室は、学生や研修生側から見たときにステージの背景には今後整備されるトレーニングフィールドや他のほ場を望む計画である点が評価されました。

また、特色あるワークショップなどの提案内容や取組体制から、農業や人材育成に対する前向きな意欲や姿勢が感じられました。

一方で、寮棟を含め全てを平屋で計画したことにより、建築物が密集し、寮室からの見合いの問題など、寮生や宿泊研修生にとっての快適さに懸念が残りました。

また、建築面積が大きく外構計画も含めて、コスト面での不安がありましたが、質疑において不安を解消する十分な回答は得られませんでした。

〇株式会社白井設計（受付番号１８）

研修エリアは、メディアスペースを核としたラーニングコモンズを中心に配置されており、次世代の農業等の在り方を模索する提案として評価されました。

寮室ユニットの中庭としてポタジェガーデンとチャレンジガーデンが交互に現れるのが特徴的で、肯定的な意見もありましたが、維持管理の難しさなどの懸念もあり、設置に対する説得性に不足を感じました。

また、単調に並ぶ寮室が画一的になることや福島県でのＣＬＴ採用に対する妥当性やコスト面を懸念する声がありました。

〇再生建築研究所・八光建設一級建築士事務所設計共同体（受付番号２０）

生活と農業を連続させるコミュニティウォールを分散設置する設計は、他にはな

いユニークな提案であり、交流を促す仕掛けとして評価されました。

集落的なイメージを出すための雁行する配置に面白さがある一方で、建築形態が複雑化すること、地場産材による木構造がコスト面を考慮した造りになっている一方で、使われ方が淡泊であり、やや提案性に乏しいと感じられたことなど、全体に提案内容の説得力に不足があり、他を上回る評価にはつながりませんでした。

また、県内外の設計事務所で組んだＪＶチームとしての強みや、地元施工者をチームに加える提案などの取組体制のメリットを十分に感じることができませんでした。

（３）まとめ

本県の基幹産業である農業を支える農業者の育成・確保は喫緊の課題です。今回のプロポーザルを通じて選定された提案者には、学生や教職員はもちろん、地域住民も含めた幅広い分野の方々との対話を重ね、設計に反映することで、福島県農業総合センター農業短期大学校が県内唯一の農業実践の高等教育機関として担う役割を建築の側面から支援してくれることを望みます。

最後に、当審査委員会が掲げた提案課題に対して真摯に向き合い、自由な発想で多様なアイデアを寄せていただいた２３者の提案者に対し、審査委員一同、心から敬意と感謝の意を表します。

令和３年９月３０日

「〔仮称〕ふくしま農業人材育成センター施設整備」基本・実施設計業務
公募型プロポーザル審査委員会

委 員 長：古　谷　　誠　章（早稲田大学教授）
副委員長：浦　部　　智　義（日本大学教授）
委　　員：新　田　　洋　司（福島大学教授）
委　　員：滝　田　　国　男（株式会社吉野家ファーム専務取締役）
委　　員：田母神　　秀　顕（福島県土木部営繕課長）
委　　員：松　浦　　幹一郎（福島県農業総合センター農業短期大学校長）
委　　員：竹　内　　孝　重（福島県農林水産部農業担い手課長）